

支援対象国

フィリピン共和国



首都 マニラ（東京から飛行機で約4時間）
 面積 29万9404km²（日本の約8割）
 人口 約1億98万人（2015年フィリピン国勢調査）
 言語 公用語はフィリピン語と英語
 その他80前後の言語
 気候 熱帯モンスーン型気候
 乾期：12～2月、暑期：3～5月、
 雨期：6～11月

（出所：外務省ホームページ）



事業地

2014年10月～現在：ヌエヴァ・ヴィスカヤ州
 2011年4月～現在：オーロラ州
 2005年1月～2014年9月：キリノ州

これまでのご支援、誠にありがとうございます。
 赤十字の活動は皆さまからのご寄付に支えられています。

皆様のご寄付でできること。例えば…



衛生キット1セット
200円



救急法キット1セット
1,000円

ご協力方法



郵便局・各金融機関

全国の郵便局、その他取扱いのある金融機関で寄付できます。



インターネット

クレジットカードやPay-easyで寄付できます。

日赤 海外たすけあい 検索



特設サイトへ



窓口

日本赤十字社の各都道府県支部、赤十字病院、献血ルーム、NHK各放送局などから寄付できます。

その他

SoftBank スマートフォンの利用料金の支払いと一緒にできる寄付やファミリーマートにある情報端末「Famiポート」を使っての寄付、Yahoo! 募金やAmazonのサイトからも寄付ができます。

〒105-8521 東京都港区芝大門1-1-3

日本赤十字社 <http://www.jrc.or.jp>

TEL: 03-3437-7089（国際部 開発協力課）

2018年3月作成

フィリピン 保健医療支援事業



衛生キットを受けとって喜ぶ子どもたちと日赤職員

なぜ、保健医療に取り組むの？

事業地は、ルソン島北部のオーロラ州ディラサグ郡とヌエヴァ・ヴィスカヤ州カヤパ郡。特にカヤパ郡は山岳地域であるため、徒歩でしかアクセスできない地域も多く、病気にかかっても、すぐに医療機関を受診することはできません。このような地理的制約に加え、医師や看護師等の不足、貧困層の健康保険加入率の低さなどにより、保健医療サービスへのアクセスが限られています。そのため、「自らの命と健康は自分で守る」という意識を一人ひとりが持ち、適切な行動をとることが大切です。



事業地への道のり（ヌエヴァ・ヴィスカヤ州）



ヌエヴァ・ヴィスカヤ州事業担当
ラーニさん

長く険しい登山を経て、やっと住民の暮らす村にたどり着きます。



オーロラ州事業担当
マルゼンさん

病院のある州都バレーからディラサグ郡までは、車で約6時間かかります。

どのような活動をするの？

地域保健ボランティアの育成

保健ニーズが高い村で地域保健ボランティアを育成しています。育成されたボランティアは、地域でも優先度の高い保健知識や技能を、地域住民に普及しています。



地域の保健課題を話し合う住民



救急法を学ぶボランティア



育成されたボランティアから住民へ救急法を普及

給水・衛生設備の整備と衛生教育

給水設備やトイレの建設・修復のほか、教育委員会と連携し、小学校で衛生教育等を実施しています。



給水設備の機能調査



子どもたちへの手洗い指導

どのような効果があるの？

住民自身で健康を守ることができます

救急法キットを使い、甥っ子のケガの手当てをしました。以前は、傷口の手当てを怖いと思っていましたが、救急法研修を受けていたので、自信をもって行うことができました！



ボランティアの
マリリンさん（オーロラ州）



食事の前後やトイレの後には、必ず手を洗うようになりました！



メリエンダ（おやつ）の前に手を洗う子どもたち（オーロラ州）

マパヤオ村では、下痢の発生件数が10%減少しました！



住民や助産師へのインタビュー（ヌエヴァ・ヴィスカヤ州）